



気鋭のアーティスト、流麻二果（ながれまにか）の抽象画が『フォレストテラス鳥居坂』のラウンジを飾る。

photo_ Satoshi Nagare
text_ Seishi Isozaki
edit_ RCKT/Rocket Company*

28 MORI LIVINGとアート

MORI LIVINGへの招待

「アートがあると生活がもっと楽しくなる」

『アーキヒルズ』『六本木ヒルズ』『表参道ヒルズ』『虎ノ門ヒルズ』など、数々の街づくりを進めてきた森ビル。その住宅ブランド、MORI LIVINGが展開するレジデンスでの暮らしに彩りを添えるのが、森美術館のキュレーションによるアートの存在だ。生活のあらゆるシーンでアートを楽しむ「アート&ライフ」をテーマに活動する森美術館は、一部のレジデンスにおいて、エントランスロビーやラウンジ、エレベーターホールなどの共用部に配置する現代アートを監修。そこに住む人、訪れる人の目を日々楽しませている。

「パブリックアートは、より多くの人々にアートに親しんでもらうための試みのひとつです」と話すのは、森美術館館長の南條史生さん。従来のように美術館に来てくれる人だけに見せるのではなく、アートにあまり興味がない人にも作品を見てもらうこ



左/『フォレストテラス鳥居坂』2階ロビー。3方が囲まれている場所に置かれたオブジェが美しい。大塚新太郎作。
右/『フォレストテラス鳥居坂』共用部。パブリックアートの近作を気に入り、南條館長が流麻二果の絵画を採用。



誰が見ても、理屈抜きに「きれい」だと感じる作品を選ぶようにしているという、森美術館南條史生館長。

と。自然と人々の目に留まるよう、日常の生活空間にアート作品を展示することも、今の美術館のミッションだと考えているという。「美術館は一般に向けて何をすべきか。何ができるのか。その問いかけに対する答えのひとつがパブリックアート、つまりアート作品を外に持って出ていくことでした。教育的・啓蒙的ではなく、“アートがあると生活がもっと楽しくなる”ということを、広く伝えていきたいと思っています」。

レジデンスに置くアート作品を選ぶ際には、まず空間の形や大きさ、特性、役割、壁や床の色などを考慮した上で、抽象がいいのか具象がいいのか、どんな色がいいのかなどを、ある程度想定する。その後、諸条件に合う作品がどこにあるのか、どんな作家がいるのかを調べていくそうだが、南條さんは作家の知名度にはこだわらず、最近いい仕事をした人

の作品を採用することが多いという。「美術の専門家は何かと理屈をつけたがるのですが、僕はもっと感覚的に選んでいいと思っています。感性を常に中庸に保ち、誰が見ても『美しい。きれい』と思える作品を選ぶことが大事。人の興味や好奇心をそそる、ある種の特別感には必要ですが、見る人に違和感を持たれるようではダメなんです。否応なしに目にもっと楽しくなる」ということを、広く伝えていきたいと思っています。

「例えば『アーキヒルズ仙石山レジデンス』の場合、スカイラウンジはパーティーなどに利用されるでしょうから、明るく楽しい印象の絵を。エントランスロビーは淡い色調で、『あまり見たことがないけど、きれいだな。でもどうやって作ったんだろう?』と思ってもらえる作品を選びました。ラウン

ジもロビーも、住んでいる方がシェアしている空間であり、そこに飾られたアートはコミュニティのシンボル、つまり皆で共有するカルチャーの象徴となるわけです。『私たちはあの作品をいつも見ている』という共感が、個々の作品に特別な意味を持たせてくれるような気もしています」

南條さんは、生活空間におけるアートは「高層ビルで20cm高く天井高を設定するようなもの」だと続ける。生活に絶対に必要なものではないが、それがあつて空間の雰囲気や居心地がぐっと良くなる。効率性や経済性とは別の次元で、暮らしにゆとりを与えてくれるのが、アートというわけだ。「まったくゆとりがない、効率を追求するだけの人生なんて味気ない」。MORI LIVINGのレジデンスが提供する「アートのある暮らし」は、そう気づかせてくれるに違いない。



向山喜章の作品は、ワックスを通して蛍光塗料が透けて見える仕組み。『アーキヒルズ仙石山レジデンス』1階エントランスロビー。



ARK HILLS SENGOKUYAMA RESIDENCE

アーキヒルズ仙石山レジデンス

所在地：東京都港区六本木 1丁目 9-18 / アクセス：六本木一丁目駅 徒歩 4分 [地下鉄南北線]、神谷町駅 徒歩 6分 [地下鉄日比谷線]

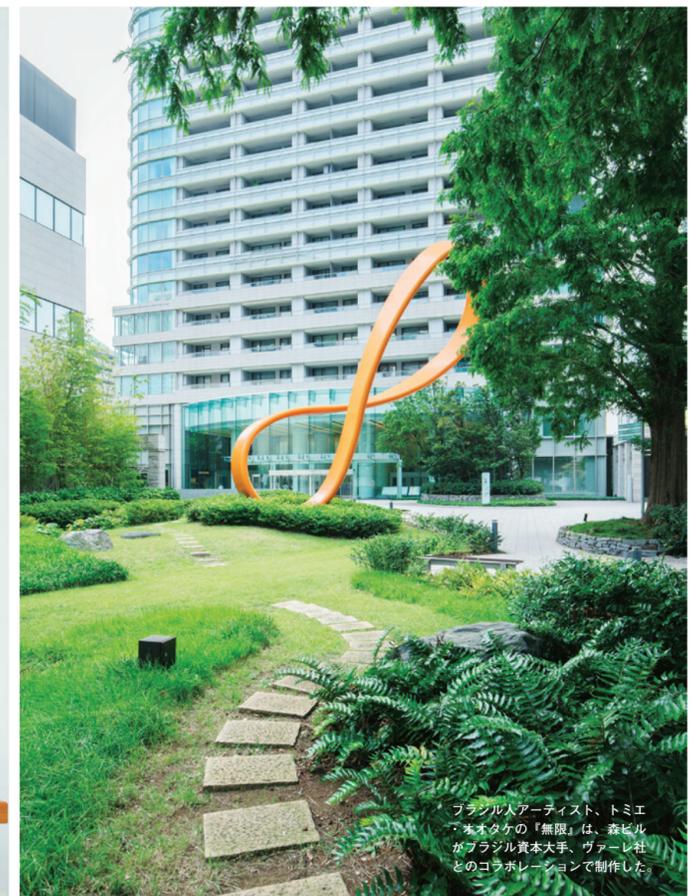
FOREST TERRACE TORIIZAKA

フォレストテラス鳥居坂

所在地：東京都港区六本木 5丁目 12-7 / アクセス：麻布十番駅 徒歩 4分 [地下鉄南北線・大江戸線]、六本木駅 徒歩 11分 [地下鉄日比谷線・大江戸線]

お問い合わせ：森ビル株式会社 住宅事業部
電話：0120-52-4032 www.moriliving.com

人々が賑やかに集う『アーキヒルズ仙石山レジデンス』25階スカイラウンジには、ギョーム・ボタージュが描いた明るい印象の油絵が飾られている。



ブラジル人アーティスト、トミエ・ボタージュの『無限』は、森ビルがブラジル資本大手、ヴァーレ社とのコラボレーションで制作した。